

神社を守る霊獣

参道の狛犬

皆さんは神社の参道や社殿の前に置かれている狛犬をご覧になったことがありますか？屋外に設置されるものの多くは石造で、同じく石造の台座に据え置かれていることがほとんどです。

狛犬は、麒麟や龍などと同じ想像上の生き物で、「獅子」と「狛犬」の2体一对の総称とされます。1体が口を開き（阿形）、もう1体は口を閉じ



勝手神社(杉山)旧境内地の狛犬

ている（吽形）場合が多く、獅子と狛犬の2種を表していると考えられます。ただ、口の開け方や角の有無、左右の置き方にはさまざまなパターンがあり、一概にどちらが獅子でどちらが狛犬だと断定するのは難しいようです。

狛犬の登場

日本で狛犬が造られるようになったのは平安時代頃のことと考えられ、有名な清少納言の『枕草子』には、天皇と皇后が座る御帳台の前に獅子と狛犬が置かれていたという描写が登場します。この場合の獅子と狛犬は木製の置物で、屋内で高貴な人を守る役割を果たしていたと思われます。また、神様を守護する霊獣として神社の神殿内や階段上の廻縁に置かれることも多く、それらの一部は現在にまで伝えられています。市内でも複数の神社に鎌倉・室町時代に造られたと考えられる木製の狛犬が残っています。

一方で、神社の参道や社殿前といった屋外に狛犬が置かれるようになるのは、室町時代後期から江戸時代のことと考えられます。特に江戸時代後期には、氏子が神社に灯籠や狛犬等を寄進することが大衆化し、市内でもこの時期に造られた石造狛犬が数多く確認されています。

地域の特徴を示す狛犬

石造狛犬は、造られた地域によって様式や材質に違いがあるといわれています。県内には、江戸時代に大坂の石工が造ったとされる、たれ耳で扇形の尾を持つ浪速型狛犬が多く存在し、市内でも安曇川や高島地域ではそれを模したと思われる狛犬が確認できます。また、今津町今津の住吉神社、弘川の阿志都弥神社、杉山の勝手神社の旧境内地には、島根県で産出される来待石を使い、松江市の八重垣神社の狛犬を模して造られたと考えられる出雲型狛犬が置かれています。出雲型狛犬は日本海沿岸地域に広く運ばれたことから、小浜と今津を結ぶ九里半街道沿いの神社に伝えられたものと考えられます。



住吉神社(今津)の吽形狛犬

参考文献：小寺慶昭著『近江の狛犬を楽しむ』サンライズ出版

2020年

閏文化財課

☎(25)8559

編集感

皆さんに毎月お届けしている広報誌ですが、地方自治体の広報活動の向上を目的とした広報コンクールに毎年、応募しています。なんと今回は15ページに掲載されているように3部門で一気に選考されるという結果となり、今までにない快挙でした。制作側からすると、こんなにもうれしいことはありません！全国では惜しくも入選しませんでした。さらなる親しみやすい広報誌を目指して制作に取り組んでいきます。(K)



広報たかしま

令和7年

6

月号
No.305

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒500-1602 滋賀県高島市新旭町北畑のろ番地

☎0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
✉t-info@city.takashima.lg.jp